「健口美®」レポート 2016

―活動報告書―

公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所

ご挨拶

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所
理事長 **藤重 貞慶**

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所は、その前身としての「ライオン児童歯科院」を大正10年（1921年）に開設、その後昭和39年（1964年）に「財団法人ライオン歯科衛生研究所」として発足、さらに平成22年（2010年）10月1日から「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」として、口腔保健の普及啓発を目指し諸活動の実践にあたってまいりました。

口腔保健普及活動がスタートした100年前は、活動のテーマは「むし歯を防ぐ」でした。今は口腔衛生思想が普及し、小児のむし歯が大幅に減少する中、「歯肉炎・歯周病を防ぐ」へと変わっています。この間、歯周病と糖尿病との関連性をはじめ、口腔保健と全身疾患との関係が明らかになってきました。さらに、高齢化が進む日本では、加齢に伴う「口の機能の低下」が重要な課題との認識が広まっています。

さて、当財団は2014年に、財団設立50周年を迎えました。財団設立50周年を記念する事業として、歯科専門家向けの書籍や一般生活者向け啓発図書の刊行や国際シンポジウムの開催などを行ってきました。また、2017年1月には、当財団の歴史を振り返りこれからの100年を見据えた書籍「歯みがき100年物語」を刊行しました。

さらにこの度、当財団の活動をもっと多くの方々に知っていただくことを目的に、年次報告書「健口美」レポートを作成いたしました。ご高覧いただければ幸甚に存じます。

これからも、当財団の基本理念として、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活に大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し「健康な心と身体はお口から！“健口美”」のコンセプトのもと、これからも「人々の健康と生活の質の向上（QOL）」に貢献すべく、口腔保健に関するさまざま事業をさらに充実、強化して実施してまいる所存です。今後とも、当財団の活動へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

「健口美」に込めた想い

（公財）ライオン歯科衛生研究所では、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、「健康な心と身体はお口から！“健口美”」のコンセプトのもと、生活者の生活の質（QOL）の向上につながるように支援を行っています。

Oral Health（口腔の健康）、Oral Beauty（口腔の美しさ）、Communication（コミュニケーション）の三つの要素が機能し、かつ調和していることからもたらされるもの、それが「健口美」です。三つの要素を保持・増進することで、口腔だけでなく身体の健康および心の健康、その結果として生活の質（QOL）の向上に繋がると私たちは考えます。「健口美」には健康なお口の「健」、良好なコミュニケーションを行う「口」、美しいお口の「美」と言う意味が込められています。

財団の概要

「お口の健康」を通じて、生活の質の向上に努めます

ライオンは「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業以来の一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。当財団はその前身としての「ライオン児童歯科院」を1921年に開設、その後1964年に財団法人ライオン歯科衛生研究所として発足、2010年には公益財団法人ライオン歯科衛生研究所として「口腔保健普及啓発事業」、「調査研究事業」、「教育研修事業」の3つの事業を推進しています。

財団の3つの公益事業

1 口腔保健普及啓発事業

乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージにおける口腔保健のテーマに応じた普及啓発を推進しています。

2 調査研究事業

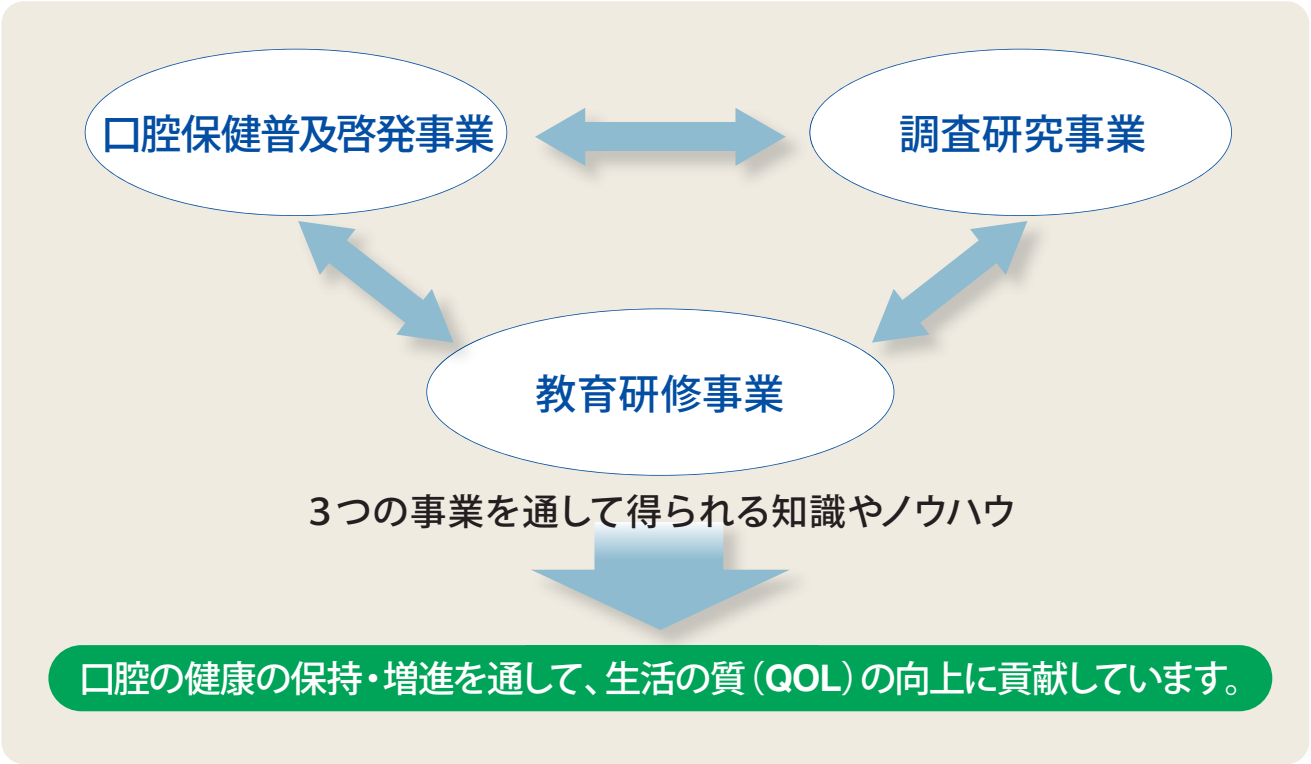
口腔保健普及啓発事業や予防歯科研究活動を通して得られた研究成果を専門家や生活者に情報発信しています。

3 教育研修事業

保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を実施しています。

当財団では、これら3つの事業を通して、生活者の口腔の健康の保持・増進し、生活の質の向上に貢献できるよう努力を続けています。

(公財)ライオン歯科衛生研究所の活動



健康寿命の延伸を目指した予防歯科医療の実践

「ＬＤＨシンポジウム」開催

2016年6月26日、「健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性」をテーマに、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所（当財団）主催のシンポジウムが、東京都港区の虎ノ門ヒルズフォーラムで（歯科医師、歯科衛生士、医師ら355名が参加）開催されました。

医科、歯科分野の3名の専門家から、歯周病と全身疾患との関連性や歯周病の発症メカニズム、メインテナンスの役割など今後の歯科医療の可能性に関する情報や見解について講演がなされ、2名の歯科医師から症例報告がありました。講演終了後のパネル討論では、健康寿命の延伸に向けての使命と役割、医科歯科連携の課題と実現について、活発な議論がなされました。

ＬＤＨシンポジウムの様子

基調講演：Systemic Implication of Periodontal Disease
Joan Otomo-Corgel（アメリカ歯周病学会 前会長）

講演１：健康長寿を支える医科歯科連携
辻 一郎（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学 教授）

講演２：生涯メインテナンスの歯科医療
天野 敦雄（大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子免疫制御講座予防歯科学教室 教授）

症例報告１：谷口 威夫（医療法人谷口歯科医院　院長）

症例報告２：小林 和一（医療法人社団馨祐会　小林歯科医院理事長）

コーディネーター：伊藤 公一（日本大学歯学部 特任教授）

「第26回ライオン健康セミナー」開催

2017年1月29日、「第26回ライオン健康セミナー」（ライオン New Year セミナーから改称）を、よみうり大手町ホールで開催し、408名の参加がありました（大阪：2017年4月23日、大阪国際会議場、参加者240名）。

ライオン健康セミナーは、歯科専門家を対象に口腔の健康に関連する最新情報や歯科診療所で役立つ情報を発信する目的で1992年から東京で始まり、2015年の第24回からは大阪でも毎年開催しています。

近年、口腔の健康が全身の健康に及ぼす影響が次第に明らかになり、健康長寿や生活の質の向上における歯科医療の役割が重要性を増してきています。このような背景から、第26回のセミナーは「健康寿命の延伸に向けた歯科医療をめざして」をテーマに4名の先生をお招きし開催しました。

第26回ライオン健康セミナー　講演の様子

基調講演：これだ！健康長寿の食生活
新開 省二（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）

講演１：歯周基本治療を再考する
長谷川 嘉昭（長谷川歯科医院 院長）

講演２：口から食べる幸せを守るための予防的アプローチ
藤本 篤士（札幌西円山病院 歯科診療部長）

講演３：口から食べる幸せを守るための包括的アプローチ
小山 珠美（NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長）

弘前大学COIとの共同取り組みを実施

健康ビックデータと最新科学がもたらす健康長寿社会への取り組み
（弘前大学 / ライオン㈱ /（公財）ライオン歯科衛生研究所の連携体制）

2013 年に文部科学省の研究開発プログラムである革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM　以下 COI）がスタートしました。全国 18 拠点の事業のひとつである弘前大学 COI は、健康ビックデータ解析による健康寿命の延伸と幸福度向上を目指して、疾患予防発見と予防法の開発に挑戦しています。

当財団は、ライオン㈱とともに弘前 COI に 2016 年度から参画し、医科歯科連携への第一歩として、口腔保健の立場から研究事業と社会実装への取組みを始めました。

研究事業としては、弘前大学が青森県弘前市（岩木地区）で過去 10 年間以上実施してきた健康診断（岩木健康プロジェクト）により収集された膨大な健康情報のビックデータを活用した疫学研究から、口腔保健と生活習慣病、認知症などとの関連性を解析し、疾病予兆の発見と予防法開発を行っています。

社会での実践としては、健康教育に力を注いだ取組みに参加しています。健康づくりは、小学生から若者世代へ啓発が大切であることから、当財団が長年にわたって実施してきた「全国小学生歯みがき大会」について青森県の小学校での参加校拡大を目指すなど、健康教育への取組みをいっそう強化しています。また、職域成人に対しては、従来の健診と異なる啓発型の新型健診に取り組んでいます。弘前 COI では、①メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、うつ病・認知症に口腔保健を加えた重要 4 テーマを総合的に健診する、②健診当日に結果を伝える、③その場で健康教育とフォローアップを行う、という 3 つの特徴を持った「啓発型健診」を提唱しています。（2017 年 2 月からこの新型健診を試行しています。）

このような医科歯科連携の新しい取り組みである弘前 COI での研究、普及啓発活動を通じて、健康長寿社会の実現を目指した口腔保健活動に積極的に取り組んでいきます。

弘前大学COI拠点への参画機関・企業

岩木健康増進プロジェクト 健診会場の様子

『歯みがき100年物語』発行

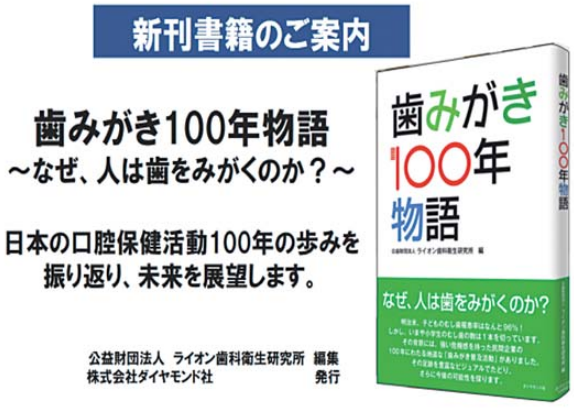
日本の口腔保健活動100年の歩みを振り返り、未来を展望

財団設立50周年を記念し、『歯みがき100 年物語』を2017 年 1 月 19 日に株式会社ダイヤモンド社から発刊しました。

今から100 年前、食生活の変化に伴いむし歯が急増し、子どものむし歯罹患率は96%にも達し大きな問題となっていました。しかし、2016年の調査では12歳児のむし歯罹患率は36%で、一人当たりのむし歯本数は0.84本と大きく減少してきています。この背景には、100 年前に強い危機感を持った歯科関係者と民間企業の地道な「口腔保健普及活動」の歴史がありました。

本書では「口腔保健の普及」に貢献したライオン株式会社と当財団の活動に焦点を当て、100 年の足跡を豊富なビジュアルでたどりながら、その原点を見つめています。さらに「健康は口の中から」という視点で口腔保健普及活動の重要性をあらためて論じながら未来を展望する内容となっています。

日本の口腔保健にとって歴史的、学術的な資料として、また普及啓発の面からも幅広い人に読んでいただけることを願い制作いたしました。



ライフステージ別口腔保健啓発活動

母子歯科保健活動 2016年度参加乳幼児・園児685人、保護者716人 累計:114万人（1971年より）

当財団の母子歯科保健活動は、乳幼児のむし歯予防には母親へのむし歯予防の理解と関心を深めることが大切との考えから1959年より始まり「たんぽぽ運動」の名称で親しまれてきました。現在は、地域行政や歯科医師会などと連携し、妊婦および乳幼児、園児とその保護者を対象に、これまで約114万人（1971年以降の累計）の親子に活動を行ってきました。

2016年度の主な活動として、賛育会病院（墨田区）で妊娠期の口の健康のトラブルや、生まれてくる赤ちゃんの口の健康管理などについて年間9回、約100人に講話を行い、妊婦の健康意識、行動の向上を図りました。さらに、文化子育てひろば（墨田区）では、0～1歳の乳児を持つ保護者を対象に、初めて歯みがきをするときのポイント等を伝える講話を年間9回、約110人に行い、子どもへの歯みがきと乳歯のむし歯予防への意識の向上を図りました。その他にも、各地で母子歯科保健活動を展開しています。

今後も、妊婦や保護者には歯と口の健康意識の向上を、乳幼児・園児には良い生活習慣が身につく支援ができるように活動を続けたいと考えています。

園児向け指導の様子

小学生歯科保健活動 2016年度歯みがき大会参加児童数 約9万人 歯みがき大会累計:108万人（1932年より）

学校歯科保健活動は「むし歯予防は学童期から指導をすることが大切である」との考えから、1922年に全国の小学校に専門講師を派遣して歯みがき指導を展開したのが始まりです。現在は、養護教諭の先生などに、保健指導の際にすぐに使える指導用のパワーポイントや歯のみがき方などの動画を提供することで、より多くの小学生が歯と口の健康の大切さについて理解を深めることに貢献しています。2016年度は5,107名の児童に活動を行いました。

第73回全国小学生歯みがき大会を開催し、約9万人が参加。オーラルケアを習慣化して“続けることの大切さ”を学ぶ

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口に対する健康意識を育むことを目的に、毎年「歯と口の健康週間（6月4日～10日）」に合わせて開催しており、1932年に第1回大会を開催してから73回大会までに参加した小学生は約108万人に及びます。

「第73回全国小学生歯みがき大会」は2016年6月3日にインターネット配信で行われ、全国47都道府県およびアジア8カ国地域の小学校総数1,729校、約9万人の小学生が参加しました。

大会では「歯と自分をみがこう。」をテーマに、明海大学学長の安井利一先生監修のもと、健康な歯ぐきの大切さや年齢に合わせた歯のみがき方の学習、デンタルフロスの使用体験を通じて「予防歯科」の理解と浸透を図るとともに、オーラルケアを習慣化することで“続けることの大切さ”を学びました。また大会で学んだ内容を復習できるよう、小学生歯みがき研究サイト「歯みがKids」を公開し、大会期間中だけでなく年間を通じて活用できるコンテンツを提供し、小学生の望ましい生活習慣定着をサポートしました。

これからも多くの小学生に、オーラルケアの定着化と継続の重要性を伝えるために、内容の充実化を図りながら活動を続けてまいります。

歯みがき指導の様子

第73回全国小学生歯みがき大会　参加校の様子

ライフステージ別口腔保健啓発活動

思春期歯科保健活動 2016年度参加生徒 1,998人

当財団の思春期歯科保健活動は、生活習慣などの乱れが多くなり、むし歯や歯周病が発生・悪化する思春期の生徒に、自分の健康への関心を高め自分の生活や健康についての課題を発見し解決できるように動機付けすることが大切との考えから始まりました。

2016年度の主な活動の1つとして、2016年7月27日に開催された「第36回全国高等学校クイズ選手権」で、参加した高校生にデンタルフロスを使うことの大切さを伝える啓発活動を関東会場と近畿会場で行いました。会場ではデンタルフロスの使用体験や、フロスケースをシールで飾り付けるコーナーなどを設け、約1,700名の高校生にフロスの周知を図りました。さらに、アンケート回答者の約85%（約700人）の人がフロスを友達や周りの人にも勧めたいと答え、今回の活動が多くの人に波及していくことが期待されました。これからも、思春期の生徒といろいろな場面で接点を持ちながら、歯と口の健康から生涯にわたる健康習慣が確立できるように支援していきたいと考えています。

高校生クイズでのデンタルフロス啓発活動の様子

成人歯科保健活動 2016年度参加者数 27,562人

累計：207万人（1961年より）

当財団の産業歯科保健活動は、家族の歯と口の健康を守るには働く人、特に女性を中心に指導することが重要との観点から、1961年に「さくらんぼ運動」の愛称で、始まりました。現在は各企業の事業所を訪問し、口腔内診査と就業者一人一人に対応した保健指導を行っています。2016年度は一般企業を中心に年間148事業所、約28,000人の就業者を対象に歯科健診、保健指導、セミナー等を実施しています。1961年の活動開始から延べ207万人の就業者に活動を行ってきました。

職域は人生の約40年間を過ごす場であり、またこの期間は生活習慣病や歯周病の増加する時期でもあります。働き盛りのこの時期に職域で自分の歯と口の健康状態を理解し、予防意識を高めることは生涯自分の歯で噛める生活に繋がり、生活の質の向上にも大きく関わってきます。これからも、歯と口の健康を通して全身の健康を見据えた予防意識の向上と行動変容を目指し、就業者一人ひとりのきっかけ作りとして、予防歯科の推進を図っていきます。

ライオングループ社員の健康保持増進のための取り組み歯科保健プログラム（ALOHA）の実践

当財団はライオン株式会社、ライオン健康保険組合と共に、ライオン社員が自ら口の健康の予防意識を高め、健康の保持増進に結び付くよう、2002年度から定期健康診断に併せて、社員全員を対象に歯科医師、歯科衛生士による口腔内チェックや保健指導を行っています（All Lion Oral Health Activity(ALOHA)）。その結果、重度の歯周病罹患者の減少（ALOHA 導入時→2015 年：11.5%→6.3%）や歯間清掃用具使用者率の増加（42.4%→70.7%）、歯科医院での定期的なプロケア受診者率の増加（10.2%→41.1%）が認められ、お口の健康状態や健康行動が改善していることが分かりました。

2016年度からは、唾液検査システム（SMT）を使ったお口の健康状態の確認や、口の気になる部分を口腔内カメラで撮影し、写真を用いた保健指導を行っています。さらに、新たに導入した歯科のe-ラーニングシステムを健診前後に行うことで、健康意識の向上と歯科医院受診を促進しています。これからも社員のオーラルケアへの意識の向上と実践推進を目指してまいります。

企業での講演会の様子

歯科健診の様子

ライフステージ別口腔保健啓発活動

高齢者歯科保健活動 2016年参加者数 17,110人

累計：2,7万人（2007年より）

「健口美®」体操の普及活動

生涯にわたり、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を担う、口の機能（口腔機能）は、日頃から保持増進していくことが大切です。当財団では口腔機能の低下に早く気付き、保持増進に結び付くように手軽にできる「健口美」体操を作成しました。

2016年度の主な活動として、10月15～18日に長崎県で開催された「ねんりんピック」の愛称で親しまれている60歳以上の人を対象とした健康と福祉の祭典「全国健康福祉祭」で「健口美」体操を行いました。体操の前には4分類での口の元気度チェックを行い、日頃の自分の口の現状や衰えている機能を理解してもらいました。その上で、各体操の留意点などを説明し音楽に合わせて楽しく体操を行いました。「健口美」体操は、全国各地で開催されたウォーキングイベントや各地の高齢者向け講演会などでも行い、2016年度は全国約17,000人に対して啓発を行いました。

今後も多くの人が生涯にわたりいつまでも美味しく食べ、楽しく話し、笑いのあるイキイキとした生活を送ることができるよう「健口美」体操の普及を図りたいと考えています。

第29回ねんりんピックでの「健口美」体操 実施の様子

KANSAIウォーク2016での「健口美」体操 実施の様子

被災地支援活動

東日本大震災支援活動（岩手県）

2011年の東日本大震災以降、被害のあった地域への支援も含めて岩手県内の園・小学校を巡回し、毎年歯みがき指導を行っています。

2016年度は9月12、14～16日の4日間で陸前高田市や盛岡市などの園・小学校合わせて6校を巡回し、約140人に活動を行いました。園では、園児の歯みがき習慣確立に向けて紙芝居や歯みがきの実習を実施、保護者向けには仕上げみがきの方法など家庭での予防歯科実践についてお話しました。小学校では、染め出しを用いて歯垢付着状況を確認し、歯垢が残りやすい場所に合わせて歯みがきの実習を行いました。

今回行った歯みがき指導が園児・児童にとって望ましい健康行動のきっかけになることを期待しています。

小学校での歯みがき指導

熊本地震復興支援活動（熊本県）

当財団はライオン株式会社と協同で、熊本地震で被災された方々への支援活動として、2017年2月10日に熊本県上益城郡益城町と御舟町、2月12日には阿蘇郡西原村にある仮設住宅、合わせて12箇所を訪問し、2日間で約150人の住民の方に支援活動を行いました。住民の方が気軽に参加できるよう「ライオン健口美サロン」と名づけ、お口の機能の保持増進を目的とした「健口美」体操や、風邪予防のための「正しい手の洗い方」の講話や実習などを行いました。

また、住民の方とライオン社員・当財団所員が話し合う機会を設け、被災直後や避難所生活の際の手洗いやお口のケアなどの当時の状況について、貴重な話を聞くことができました。

今回の活動を通じて得られた情報や経験を今後の支援に活かしていきたいと考えています。

住民の方に「健口美」体操を説明している様子

ライフステージ別口腔保健啓発活動

その他歯科保健活動

障がいのある方への歯科保健活動

1994 年から、主に視覚・聴覚に障がいのある方に対し、歯科保健活動を通じて「歯と口の健康」の支援を行っています。聴覚障がい者には、聾学校や特別支援学校に訪問して、手話を用いた指導や、漢字に振り仮名（ルビ）をふったり、写真やイラストをいれることで理解しやすいような教材を用いて工夫した指導を行っています。また、視覚障がい者には、ライオン株式会社と大日本印刷株式会社が共同で発行した「さわってわかる歯みがきの本」の刊行に協力しています。この本は、盲学校などで用いられている絵や図を凸凹で立体的に表現した触図や点字、本の内容を読み上げる音声コードを用い、むし歯や歯周病などの症状や歯肉の状態が理解しやすいようにしています。

今後も、情報発信や教材提供を積極的に行い、障がいのある方への更なる歯科保健の向上を目指します。

さわってわかる歯みがきの本《歯周病編》

東京都児童相談センターでの取り組み

近年、子どもへの虐待が社会問題として注目されてきています。全国の児童相談所が対応した児童虐待相談件数は年々増加し、2015 年には初めて 10 万件を超え、過去最多となりました。虐待を受けている子どもは、育児放棄や生活環境など様々な理由でむし歯が多い傾向にあると言われ、虐待が歯や口腔内状態に密接に関わっていると考えられています。当財団では 2009 年から、虐待をうけている子どもの自立を支援するため、東京都児童相談センター内の一時保護所において、歯科医師の先生方とともに毎月 1 回、歯科健診と保健指導を行い、これまでに、約 2,300 人の子どもに対して支援を行ってきました。歯科健診では、口腔内の状態に合わせて保健指導を行うとともに、口腔に不自然な外傷がないかなどもチェックしています。

この取り組みは自立支援にもつながる活動と考えており、これからも継続してまいります。

2016 年 6 月 30 日東京都児童相談所での取り組みに対し、東京都児童相談センター所長（左）より感謝状を頂きました。（藤重理事長：右）

海外での活動

ベトナムでの歯科保健活動の実施

当財団では、長年培ってきた口腔保健活動の知識や経験を、国内に限らずすべての人々の口腔の健康の向上に貢献したいと考え、東南アジアを中心とした海外でも支援活動を推進しています。

2016 年度には、ベトナムのホーチミン市、ハノイ市で活動を実施しました。2017 年 2 月 20 ～ 24 日には、ホーチミン市内の小学生に向けて正しい歯みがき習慣に結びつくように歯みがき教室を行いました。歯みがき教室では、動物の歯に関するクイズ、歯みがきソングにのせた歯みがきの実習を行い、5 日間で 5 校の小学校、約 4,000 人にオーラルケアの大切さを伝えました。

2017 年 3 月 4 日～ 5 日には、ハノイ市内ショッピングモールで生活者のオーラルヘルスケア意識向上を図るため、講演会と、ブース展示を行いました。ブース展示では、参加者の気になる部分を口腔内カメラで撮影し、口腔内の状態に合わせた歯みがき方法を提案しました。このイベントには 2 日間で約 900 人が参加しました。

これからも日本だけでなく、海外の歯と口の健康の向上にも貢献していきたいと考えています。

ホーチミン市内小学校での歯みがき教室の様子

東京デンタルクリニック 2016年度患者数 11,435人 累計:184万人

東京デンタルクリニックは、1921年（大正10年）に東京・銀座に開設された「ライオン児童歯科院」に始まります。1971年以降、目黒での診療所を経て 2014 年に五反田駅前に新たに開設されました。現在は、乳幼児から高齢者まで全てのライフステージの方々に対して予防歯科活動、診療活動を行っています。

歯科専門家向けセミナーの開催

当財団では、歯科専門家向けにセミナーを開催しています。2016年度は4種類のセミナーを開催し、合計183名の歯科専門家が参加しました。いずれのセミナーも少人数制で、すぐに実践に繋がるよう実習を交えた内容で実施しています。

2016 年度実施セミナー

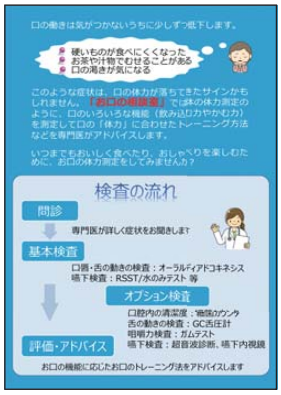
- カリエスリスクコントロールセミナー（実施回数 2 回、受講者 90 名）
- 歯周病管理セミナー（実施回数 2 回、受講者 21 名）
- スケーリングセミナー（実施回数 2 回、受講者 18 名）
- 超音波スケーリングセミナー（実施回数 9 回、受講者 54 名）

口腔機能外来「お口の相談室」の新設

2016 年 11 月からは口腔機能に問題のある高齢者を対象とした「お口の相談室」を新設いたしました。

口の働きは気がつかないうちに少しずつ低下します。硬いものが食べにくくなった、お茶や汁物でむせることがある、口の渇きが気になる、このような症状は、口の体力が落ちてきたサインかもしれません。「お口の相談室」では身体の体力測定のように、口のいろいろな機能（飲み込む力やかむ力など）を測定して口の「体力」に合わせたトレーニング方法などを摂食嚥下や高齢者歯科医療の専門の歯科医師がアドバイスします。

毎月第一土曜日に診察を行っており、地域住民の皆様の健康を支援する歯科診療所を目指しています。



季刊誌「お口の時間」発行

東京デンタルクリニックでは、地域住民や患者さん向け季刊誌「お口の時間」を発行し、口の健康を通した情報を発信しています。

2016年度には、37号～39号を各号約1,000部発行し、診療活動で配布しました。今後も、診療活動での配布と併せて、ホームページにも掲載し、情報発信を行ってまいります。

診療所を活用した教育・研修

東京デンタルクリニックでは、歯科衛生士養成校からの臨床実習生を年間を通して受け入れ教育研修に協力しています（1 校 8 名）。

東京デンタルクリニック

カリエスリスクに基づいた歯科医療の推進に関する評価

2016年度厚生労働科学研究としてカリエスリスク・テストを応用した成人歯科健診の有用性に関して評価を行ないました。すなわち、カリエスリスク・テストを併用した定期歯科健診受診者と治療を目的とした来院患者について、う蝕発病状況とその他関連性を分析した結果、これら両グループの間で明らかな喪失歯数の差が認められ、定期歯科健診の有用性を明らかにしました。

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の承認取得に向けた活動

厚生労働省は、地域包括ケアシステムとの連携により地域完結型医療を推進する目的で「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所（か強診）」の認可制度を、2016年4月の診療報酬改定に併せて新設しました。

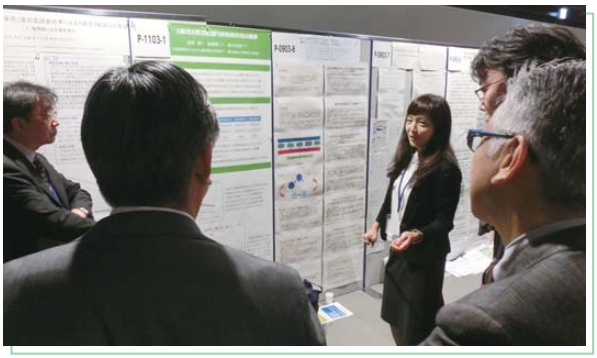
東京デンタルクリニックでも今後、より一層の地域に貢献することを目指し、本制度の承認取得に向けた取組みを行ってきました。安心安全な歯科医療環境、偶発症等緊急時の連携体制の確保、在宅医療を担う保険医療機関と連携、歯科訪問診療の実績、他の保健医療サービス及び福祉サービスとの連携等、「か強診」承認取得のための11項目の施設基準をクリアし2017年3月に申請、同年5月に正式に認可されました。

これからも今まで以上に地域医療との連携を強化し地域住民に密着した歯科診療所として貢献度を高めてまいります。

厚生労働省ホームページより
http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000125201.pdf

調査研究活動の推進

東京デンタルクリニックでは臨床研究にも注力しており、調査研究活動を推進しています。2016年度は2テーマの研究を推進いたしました。



学会での発表の様子（写真中央：当財団発表者）

1 3歳児う蝕の推移とその要因解明

東京デンタルクリニックでは1970年代から3歳児う蝕の罹患状況の調査を継続して行っています。う蝕のある3歳児の割合は年々減少していますが、上顎前歯のう蝕有病者率は10年ほど前から横ばいで、3歳児の約4人に1人はこの部分にう蝕があるということがわかりました。この結果は「第75回日本公衆衛生学会総会」（2016年10月 / 大阪市）で報告致しました。今後も更に調査を進め、3歳児のカリエスフリー90%達成へ貢献することを目指します。

2 ダウン症のある方の口腔疾患リスクの特徴とその予防法

東京デンタルクリニックではダウン症のある方の口腔疾患リスクを明確にして効果的な予防手段法を確立することを目的に調査研究を開始いたしました。公益財団法人日本ダウン症協会の協力を得て5ヶ月から45歳まで66名の方の歯科健診と唾液・歯垢の細菌検査を実施し、口の中の特徴と歯周病菌の感染状況を調査しています。今後も調査研究を継続し効果的な予防方法の確立を目指します。

学術発表

口腔保健に関する調査研究を推進し健康の増進に役立つ最新情報の発信を行っています。本年度は歯科保健と全身健康および臨床症例などについて 3 件の論文投稿および 7 件の学会発表を行いました。

アンダーライン：財団所員

論文投稿

1. Toyoko Morita, Yoji Yamazaki, Chika Fujiharu, Takanori Ishii, Misae Seto, Norihide Nishinoue, Yoshiyuki Sasaki, Kumiko Nakai, Hideki Tanaka, Takayuki Kawato, Masao Maeno：Association Between the Duration of Periodontitis and Increased Cardiometabolic Risk Factors: A 9-Year Cohort Study. Metabolic Syndrome and Related Disorders. 14(10): 475-482, 2016.
2. 森田 十誉子, 山崎 治, 湯之上 志保, 細久保 和美, 武儀山 みさき, 石井 孝典 , 冨士谷 盛興 , 千田 彰：唾液検査と質問調査を組み合わせた口腔保健指導プログラムの有効性評価. 日歯保存誌　59:497-508,2016.
3. 田口 可奈子：成人の歯科予防処置に必要な歯科衛生士数の評価ー山梨県の歯科医療機関における質問紙調査からー. 口腔衛生会誌　67:18-22,2017.

学会発表

1. 湯之上 志保, 許斐 優衣, 石田 直子, 中向井 政子, 高阪 利美, 荒川 浩久：歯科衛生士学生の使用する歯みがき剤と歯科保健行動等に及ぼす歯科衛生教育の影響 3. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会
2. 森田 十誉子, 山崎 洋治, 湯浅 由美, 藤春 知佳, 石井 孝典, 瀬戸 美才, 川戸 貴行, 前野 正夫：歯科保健の介入によるメタボリックシンドロームへの効果：パイロット研究. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会
3. 丸山 真達, 堤 康太, 城 隆太郎, 森嶋 清二, 柴崎 顕一郎：年齢と口腔細菌叢との関係についての検討. 第 65 回日本口腔衛生学会・総会
4. 後藤 理絵：職域での歯科保健活動が歯科医療費、医療費および口腔内状況に与える影響について ー歯科健診導入後 5 年間の推移ー. 第 89 回日本産業衛生学会
5. 鈴木 基之：クサビ状欠損部に対し結合組織移植手術を応用し長期間良好な経過の認められた 1 症例. 第 59 回春季日本歯周病学会学術大会
6. 武田 香, 森嶋 清二, 眞木 吉信： 3 歳児乳切歯部う蝕有病状況の推移. 第 75 回日本公衆衛生学会総会
7. Toyoko Morita, Yoji Yamazaki, Takanori Ishii, Takayuki Kawato, Masao Maeno：Association between the duration of periodontitis and increased cardiometabolic risk factors: a 9-year cohort study. 第 95 回 IADR（International Association for Dental Research）

外部助成活用事業

1. 武井 典子（分担研究）：認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究, 長寿・障害総合研究事業　長寿科学研究開発事業
2. 武井 典子（分担研究）：歯科衛生士の新人教育、復職支援のための e ラーニング教材の開発、活用と評価, 平成 28 年度科学研究費助成事業（基礎研究 C）
3. 高田 康二：介護予防のため住民参加型口腔機能向上事業～口腔機の減退へのつきと支援～高齢者が高齢者を支える活動を通して ,8020 推進財団　平成 28 年度歯科保健活動助成事業

図書出版・執筆

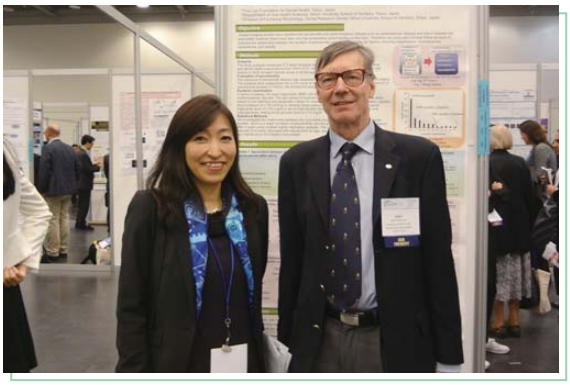
1. 『歯みがき 100 年物語』執筆者：(公財) ライオン歯科衛生研究所 企画担当：柳橋 憲夫、森田 修、海老沼 緑 発行：株式会社ダイヤモンド社
2. 『ライオン口腔保健活動 100 年のあゆみ』執筆者：(公財) ライオン歯科衛生研究所　発行：(公財) ライオン歯科衛生研究所
3. 『LION Promoting Oral Health Over 100Years of Progress』 執筆者：The Lion Foundation for Dental Health 発行：The Lion Foundation for Dental Health

学術発表

第95回 International Association for Dental Research（国際歯科研究学会：IADR）にてポスター発表を実施

2017年3月22日～25日に、米国・サンフランシスコの Moscone Center West で、第95回 International Association for Dental Research が、米国歯科研究学会、カナダ歯科研究学会と共同開催されました。本学会では口頭発表1,121題、ポスター発表2,946題、シンポジウム53題、予防から治療、基礎研究から疫学研究まで広範囲なプログラムが組まれました。

今回、「Association Between Periodontitis and Cardiometabolic Risk Factors:9 -year Cohort Study（歯周病と心血管代謝リスク要因との関連性 - 9年間のコホート研究）」という演題でポスター発表を行いました。9 年間での歯周病の累積状況と心血管代謝リスク指標（肥満、高血圧、脂質異常、高血糖）の陽性化との関連性について解析を行い、歯周ポケット保有期間が長いことが心血管代謝リスク指標の陽性化リスクを高めるという内容です。9 年間という長期のコホート研究であることに対する関心が非常に高く、質疑応答では、IADR 学会長を始め多くの先生から研究方法、対象集団や研究デザインに関する質問が多くありました。



Jukka Meurman 教授（IADR 会長：右）と財団発表者（左）

日本歯科衛生学会　学術賞受賞（（公財）ライオン歯科衛生研究所賞）の表彰

日本歯科衛生士会と日本歯科衛生学会は歯科衛生の向上と実践に根ざした学術研究において、優れた成果をあげ、人々の健康と福祉に寄与する研究発表に対して学術賞（（公財）ライオン歯科衛生研究所賞）を毎年授与しています。当財団はこれに協賛し、学術の向上を支援しています。

2016 年 9 月 17 ～ 19 日に開催された日本歯科衛生学会第 11 回学術大会（広島国際会議場）において、2015 年度日本歯科衛生学会学術発表賞の表彰式が行なわれ、受賞した 3 名の方に当財団の山本副理事長から表彰状と副賞が授与されました。

■2015 年度第10回学術発表賞表彰者（敬称略）

【口演発表賞】

●院内腫瘍センターにおける初回外来がん化学療法患者の“口内炎症状”調査
杉浦裕子（福岡県）

【ポスター発表賞】

●二次予防対象高齢者における複合プログラム介入の効果検証
柴田真弓（愛知県）

【学生研究賞】

●飼料形態の違いが脳の発達へ与える影響
阿部智美（学生会員）

日本歯科衛生学会　学術賞　表彰式の様子

理事・評議員

平成 29 年 6 月 20 日現在
評議員・理事・監事共通

評議員（任期：平成 26 年 6 月 23 日～平成 30 年定時評議員会開催日）　評議員 19 名

	氏　名	役　職　名	
評 議 員	荒川 浩久	神奈川歯科大学大学院 口腔衛生学講座 教授	歯学博士
評 議 員	伊藤 公一	日本大学 歯学部 特任教授	歯学博士
評 議 員	小竹 由紀	ライオン株式会社 ＣＳＲ推進部長	
評 議 員	川口 陽子	東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学分野 教授	歯学博士
評 議 員	川端 康嗣	ライオン歯科材株式会社 代表取締役社長	
評 議 員	川本 強	一般社団法人東京都学校歯科医会 前会長	歯学博士
評 議 員	神原 正樹	大阪歯科大学 名誉教授	歯学博士
評 議 員	菊谷 武	日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長	博士（歯学）
評 議 員	嶋崎 義浩	愛知学院大学 歯学部 教授	博士（歯学）
評 議 員	高野 秀夫	東京商工会議所 常任参与	
評 議 員	高橋 龍太郎	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所	医学博士
評 議 員	花田 信弘	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
評 議 員	平田 創一郎	東京歯科大学 教授	博士（歯学）
評 議 員	福田 洋	順天堂大学 医学部 准教授	医学博士（公衆衛生学）
評 議 員	丸山 進一郎	一般社団法人日本学校歯科医会 会長	歯学博士
評 議 員	満武 純	ライオン株式会社 オーラルケア事業部長	
評 議 員	向井 美惠	昭和大学 名誉教授	歯学博士
評 議 員	柳沢 幸江	和洋女子大学 家政学群 教授	博士（栄養学）
評 議 員	和田 啓二	ライオン株式会社 事業開発部 部長	

理　事（任期：平成 28 年 6 月 21 日～平成 30 年定時評議員会終結時）　理事 13 名

役　職	氏　名		
代表理事 理 事 長	藤重 貞慶	ライオン株式会社 相談役　公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 理事長	
代表理事 副理事長	山本 高司	公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 副理事長	
業務執行理事	新井 竜次	公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 統括部長	
業務執行理事	石井 孝典	公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 理事	
理　事	天野 敦雄	大阪大学大学院 歯学研究科 研究科長　大阪大学 歯学部 歯学部長	歯学博士
理　事	石井 拓男	東京歯科大学 常務理事　東京歯科大学短期大学 学長	歯学博士
理　事	井出 吉信	東京歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理　事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理　事	髙野 直久	公益社団法人日本歯科医師会 常務理事	歯学博士
理　事	田上 順次	東京医科歯科大学 理事･副学長　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授	歯学博士
理　事	服部 正巳	愛知学院大学 歯学部 高齢者歯科学講座 教授　愛知学院大学 歯学部附属病院 病院長	歯学博士
理　事	眞木 吉信	東京歯科大学 教授　公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 東京デンタルクリニック院長	歯学博士
理　事	安井 利一	明海大学 学長	歯学博士

監　事（任期：平成 28 年 6 月 21 日～平成 30 年定時評議員会終結時）　監事 3 名

役　職	氏　名		
監　事	上林 博	上林法律事務所	辨護士
監　事	木村 直人	木村直人税理士事務所	税理士
監　事	西山 潤子	ライオン株式会社 監査役	

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所のあゆみ

1913 年	口腔衛生啓発活動開始（写真①）
1921 年	「ライオン児童歯科院」開設（写真②）
1932 年	「第 1 回学童歯みがき大会」開催（写真③）
1952 年	口腔衛生普及車「ライオン・ヘルスカー 1 号」完成（写真④）
1958 年	母子歯科保健活動（たんぽぽ運動）開始
1961 年	就業者への歯科保健活動（さくらんぼ運動）開始
1964 年	「財団法人ライオン歯科衛生研究所」設立 「ライオンファミリー歯科診療所」開設（東京・京王デパート）
1965 年	学童歯みがき大会をオリンピック競技場（国立競技場）で開催（写真⑤）
1984 年	台湾の園・小学校で歯科保健活動実施（写真⑥）
1992 年	ライオン New Year セミナー開始（写真⑦）
1998 年	マレーシアでの口腔保健活動実施
2004 年	設立 40 周年記念として「歯周病と全身の健康を考える」を発行
2005 年	視覚障害者向け歯の健康冊子　「さわってわかる歯みがきの本」監修
2007 年	ホームページ開設、季刊誌「お口の時間」発行
2008 年	学童歯みがき大会のインターネット配信をスタート
2010 年	公益財団法人として内閣府より移行認定
2014 年	目黒駅前歯科診療所を東京デンタルクリニックとして五反田に移転・開院（写真⑧） 「口腔機能への気づきと支援 - ライフステージごとの機能を守り育てる -」を発行
2015 年	「健康をみがく笑顔をふやす」　シリーズ全 4 巻発行
2016 年	LDH 国際シンポジウム [健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性] を開催 第 73 回全国小学生歯みがき大会を開催。9 万人がインターネット参加 (写真⑨) （学童歯みがき大会を改称）
2017 年	「歯みがき 100 年物語」発刊 第 26 回ライオン健康セミナー (New Year セミナーを改称）を東京、大阪で開催

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所
https://www.lion-dent-health.or.jp/

東京本部
〒130-8644　東京都墨田区本所 1-3-7
TEL.03-3626-6490　FAX.03-3626-4182

大阪事業所
〒541-0057　大阪市中央区北久宝寺町三丁目6番1号
本町南ガーデンシティ 5 階
TEL.06-7739-8422　FAX.06-6243-1467

名古屋事業所
〒460-0003　名古屋市中区錦 2-3-4
名古屋錦フロントタワー 10 階
TEL.052-220-6780　FAX.052-220-6777

東京デンタルクリニック
〒141-0002　東京都品川区東五反田 5-23-7
五反田不二越ビル 2 階
TEL.03-3473-6721　FAX.03-3473-6725